2Sa－5

仙台圏の分譲集合住宅の設備機器の利用状況

阿留多伎　眞人（尚絅女学院短大）

目　的：近年の住宅用設備機器の普及率は著しく伸びているが、分譲集合住宅ではあらかじめ設置されるものが多く、居住者の要求を反映しているとは言い難い。そこで分譲集合住宅の設備機器の設置状況と使われ方から設備機器の導入上の問題点を探ることとした。

方　法：仙台圏で平成5年6月までに供給された610件の分譲集合住宅から33件を選び、全戸の郵便受けに調査票を配布し、郵送により回収した（平成7年9月）。配布1493票、回収294票、回収率19.7%であった。アンケートは防犯、給湯、台所、洗面所、便所、冷暖房、共用設備などの設備機器全般についての設置状況、利用状況、評価などの項目で構成した。

結　果：分譲集合住宅のシャンプードレッサー、３口コンロ、オートロックなどは昭和50年以降に普及率を伸ばした設備機器であるが、その利用頻度にはばらつきがある。例えば、シャンプードレッサーは全般的には「あまり使わない」が40.1%もあり、利用頻度の低い設備機器であるが、成人女性の利用頻度が高いなど、性別や年齢で利用頻度が異なっていた。また、便座の洗浄機能は「よく使う」が97.0%を占めるほどの設備機器であるが、乾燥機能は「使わない」が26.4%も占めていた。コンロの口数に対する評価では、４口コンロで「多すぎる」という評価が28.6%もあり、システムキッチンのようにコンロの口数を簡単に変更できない設備では慎重な選択が必要であろう。しかし全般的には、分譲集合住宅の設備機器はよく使われており、設備機器が過剰となっているとは言えなかった。一部のあまり使われていないような設備については今後の改良が必要であろう。また、家族構成に合わせた設備機器の選択を可能にするなど、設置方法を改善することも考えられよう。